

共同研究協定

| | | | | |
|-------|------------------------------|--------------------------|------------|---------------|
| 日本 | 財団法人名古屋みなと振興財団 (名古屋港水族館) | | 2009.7.3 | — |
| マレーシア | オランウータン島財団 | Orang Utan Foundation | 2010.11.1 | — |
| マレーシア | ブラウバンディング財団 | Pulau Banding Foundation | 2010.11.1 | — |
| 日本 | 西海国立公園九十九島水族館 「海きらら」 | | 2012.6.16 | — |
| 日本 | 日本モンキーセンター | | 2014.10.15 | — |
| 日本 | 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構生理学研究所 | | 2014.1.22 | 5年間 (自動継続) |
| 日本 | 新潟大学脳研究所 | | 2015.8.1 | 5年間 (自動継続) |
| 日本 | 中部大学創発学術院 | | 2016.9.2 | 5年間 (自動継続) |
| 日本 | 公益財団法人鹿児島市水族館公社 (かごしま水族館) | | 2016.11.1 | 5年間 (自動継続) |

3.5 学位取得者と論文題目

京都大学博士（理学）

高田裕生（課程）：Morphological changes of large V pyramidal neurons in cortical motor-related areas after spinal cord injury in macaque monkeys（サル脊髄損傷後の運動関連領野における5層巨大錐体細胞の形態学的変化）

李婉儀 Lee Wan Yi（課程）：Exploring factors governing the gut microbiome of Japanese macaques（ニホンザルにおける腸内細菌叢の変動要因）

仲井理沙子（課程）：霊長類 iPS 細胞を用いた初期神経発生動態の解析

京都大学修士（理学）

Sanjana Pratap Kadam：喫煙者と非喫煙者の社会的および情動的認知バイアス

Satyajit Biswas：SIV 感染アカゲザルにおける抗レトロウイルス療法のプロトコルの確立

高安環：上丘における前頭眼野からの入力の情報処理様式

戸塚めぐみ：情動反応における腹内側前頭皮質の役割の解明

沼部令奈：TAS2R 遺伝子多型によるコーヒーの苦味成分に対する感受性の違い

濱寄裕介：コモンマーモセットの音声コミュニケーション解析における音源定位技術の応用と評価

林咲良：哺乳類ゲノムで最近内在化または転移した内在性レトロウイルスの同定

平田和葉：ニホンザルにおける歯のマイクロウェアを用いた食性推定法の検討

南俊行：嵐山餌付けニホンザル集団の養育行動に関する研究：ベビースキーマと祖母仮説に着目して

Kovba Anastasiia：霊長類モデルによるヒト免疫不全ウイルス（HIV）潜伏感染に関する研究：リンパ組織 HIV 感染リザーバーへの抗レトロウイルス薬の効果とその意義

Abdullah Langgeng：温泉とホロビオン：ニホンザルの温泉入浴行動と宿主関連生物相の関係

3.6 外国人研究員

M Sigaud（フランス 所属・無）

(2018.9.27～2021.4.26)

受入教員：MacIntosh Andrew

研究題目：生息環境の悪化が絶滅の危機に瀕した霊長類におよぼす影響評価

C Sarabian (フランス 所属・無)

(2019.9.29~2021.9.28)

受入教員: MacIntosh Andrew

研究題目: チンパンジーにおける「嫌悪」を引き起こす認知的・生理的メカニズムの分析

J Gao (中国 所属・京都大学)

(2020.10.1~2022.9.30)

受入教員: 足立幾磨

研究題目: チンパンジーと人の子供における身体の認識:比較認知発達の観点から

P Voinov(ロシア連邦 所属・無)

(2021.11.4~2023.11.3)

受入教員: 足立幾磨

研究題目: チンパンジーにおける協働する他個体の行為の心的表象

3.7 日本人研究員・研修員

今年度は該当なし

3.8 霊長類学総合ゼミナール

The Interdisciplinary Seminar on Primatology 2021

日時: 2021年12月16日(木)

場所: 京都大学霊長類研究所 大会議室、Zoomにてオンライン開催

発表: 14件(口頭: 13件)

霊長類学総合ゼミナールは霊長類学系の正式なカリキュラムに組み込まれており、毎年TAを中心とした大学院生が企画運営し、所内の教員、研究員、学生の研究交流を促進することを目的として開催されている。本年は、新型コロナウイルスの流行をうけZoom開催とした。国内の院生・研究員から海外在住生まで多様な層からの参加を設け、口頭による研究発表と修士課程の学生や博士課程以上の在学学生・職員による研究計画・研究報告発表を実施した。密集を避けるため、例年実施していたポスター発表は残念ながら実施しなかった。

特別企画として、霊長類研究所にまつわるクイズ大会をオンラインで開催した。霊長類や霊長類研究所に所属する先生方に関するクイズをzoom上で開催し、発表者以外の学生が参加の実感を持てる内容となるよう工夫を施した。クイズの正当数集計も行い、ランキングを発表したが、このクイズ大会がコロナ禍で減少してしまっている院生同士の交流のきっかけとなっていれば幸いである。また、2つ目の企画として、これまで5回実施され好評であった「霊長類研究所 写真展」を初めてオンラインで開催した。「Moments from PRI members」と題して霊長類研究所の学生・職員に呼びかけ、研究に関係するものから日常生活の一場面まで、幅広いジャンルの写真・動画を集め、キャプションと共に動画にまとめたものをzoomにて上映した。更に、写真・動画を公開する期間限定ウェブサイトを作成し、霊長類学総合ゼミナール開催日に自由に見ることができるようになることで、前回までのように発表の合間や昼休憩の時間に写真を自由に見て回れる雰囲気が出せるよう努めた。先述した通り、コロナ禍で制限があることでフィールドワークや実習、学生間での交流の減少は避けられないが、この企画を通して霊長類研究所に所属する互いの研究や生活を共有し、所内の教員、研究員、学生の研究交流を促進するという、霊長類学総合ゼミナール目的の達成に貢献できたと考えている。

<口頭発表1・研究計画>

1. 中村 冠太(系統発生・大学院生) "Morphological and Histoanatomical
2. Studies of the Larynx in Lemur "
3. 豊田 直人(系統発生・大学院生) "Towards a New Hypothesis on the Trade-Off between Olfaction and Vision in Primates "
4. 生形 咲奈(認知学習分野・大学院生) "Does C-tactile Afferent Stimulating Touch Carry a Positive Affective Value in Infants?"
5. Zhuoling Li(統合脳システム分野・大学院生) "Anatomical Substrate for Sensorimotor and Association Cross-Talks Between the Basal Ganglia and the Cerebellum in Nonhuman Primates"